

月刊

地球が与えてくれた贈り物を大切にリサイクル社会の実現をめざしたい

No.119 2004. 8

<http://www.recycledesign.or.jp>
Eメールmail@recycledesign.or.jp

リサイクルデザイン

特集

食品リサイクルの最前線は横浜にあり



- 教えて、聞かせて 自家製たい肥でみんなの畑は大豊作 _____ P3
- 今月のリサイクルデザイナー _____ P6
- エコクッキング 親子で食育を考えよう! ・コラム「リサイクル今とむかし」こぼれ話 _____ P7
- 第10回リサイクルデザインフォーラム 子ども環境会議 みんな集まれエコレンジャー! _____ P8

食べ物を粗末にはしてはいけません！

食品リサイクルの最前線は横浜にあり

平成13年5月1日から施行されている食品リサイクル法をご存知ですか？ これは、食品関連事業者の責任として平成18年度までに食品廃棄物の量を20%減らしましょう、ということを決めた法律です。以来、食べ物を粗末にせず有効に利用しようと工夫が重ねられています。食べ物のリサイクルの方法は、現在のところ大まかに3つ……、家畜の飼料化、畑にまく肥料化、そしてエネルギー源としてのバイオガス化です。そのひとつ“飼料化”について調べるために、市内にある超高性能・最新鋭のシステムを備えた加工センターを訪ねてみました。

1日に12トン以上を処理加工

金沢区鳥浜町にある横浜市食品リサイクル加工センターを訪ねたのは、台風一過の強い陽射しに見舞われた暑い日の午後。ちょうど到着した保冷車から運び出されたビニール袋には、野菜くずやいろいろな惣菜類、パン、おからなどの食品残さがいっぱいです。作業員さんがひとつひとつ袋を開け、大

きなものは機械で刻んで大きなピット（受け入れ槽）に投入していきます。ピットの大きさは約3m×4mで深さが8m。まだ昼を少し過ぎたばかりというのに、その大きなますがほぼ一杯になっていることに驚くと「いや、これで朝からのすべての量ではないんですよ」と、ここを運営する横浜市有機リサイクル

協同組合事業本部の前川覚さん。2交代制で24時間操業、1日の処理能力は12～14トンとのこと。24時間休みなく稼働し続けるだけ大量の残さが搬入されるということにも驚かされます。

（*残さとは残り物のこと）

学校給食の残りも飼料・ハマミールに

ここには、神奈川県庁からの茶がらとコーヒーかす、デパートやスーパー、コンビニ、ホテルなどからの調理残さ、食品メーカーの工場から出る製造工程残さなどのほか、市内4区（磯子・金沢・港南・栄）の小学校給食の残さが集まってきます。が、“生ごみ”という言い方は、実はこのセンターでは使いません。ごみではない、食品未利用資源（食品としてまだ利用されていない資源）だという考えなのです。よって、それを運んでくる車は“食品未利用資源保冷収集車”といい、環境に配慮した天然ガス車輛を使っています。

保冷車からピットに下ろされたあとは乾燥機に入れられて、しばらく冷ましてから再び70度くらいまで加熱し殺菌。それから、油分を取りのぞく脱脂の工程に入ります。市販の配合飼料の場合、脂肪分はおおよそ5%。それに近い数値にまで脂肪分を下げるのです。脱脂のあとは、成分チェックです。水分



やたんぱく質、脂肪、せんいなどの成分の比率がコンピューターによって瞬時に測定できます。そして最後はミキサーでよく混ぜ、手にとればサラサラと砂のようにこぼれ落ちる、おいしそうな匂いの飼料、横浜生まれの“ハマミール”のできあがりです。食品未利用資源が、重量にして約5分の1のハマミールになります。



完成したハマミールは、屋外にある大きなサイ回に貯えられます。

空気と水もきれいに加工？

乾燥機その他、熱を発散する設備が並んでいるので建物の中はかなりの高温ですが、異臭はほとんどありません。調理場のような香ばしい匂いは漂いますが、残さ、というイメージにつきまとう臭気は意外なほど無いのです。その理由は、設備の各所に配備されたダクトにあります。工程途中で発生する臭気はすべてダクトで集められ、そこで臭気は一気に550～600度の高温に熱せられます。



香ばしくておいしそうな匂いのハマミールは、袋詰めされて出荷を待ちます。

すると、臭いがほとんど消えてしまうのです。臭いを焼く、などということは想像もしませんでしたが、こんな技術もすでにあったのです。さらに、廃水もきちんと処理してから下水に流し、よぶんな

脂肪分としてタンクに集められた油は、せっけんや燃料の材料として再生工場に運ばれます。食品未利用資源を飼料にするだけでなく、廃水や油などいろいろなものの処理にも気を配っているのです。

ハマポークとアリタさんちの豚肉

さて、できあがったハマミールはこの先どこへ行くのでしょうか。現在、横浜市内では12軒（1軒当たり1ヵ月に1トンあまり使用）、千葉県内では3軒の養豚農家（同20トン）がこの飼料を利用しています。従来の配合飼料と同等の品質でありながら値段は半額であるということ、原料はもともと人の食べ物であるという安心感が喜ばれています。横浜のハマポーク、という名称を耳に

したことがありますか。そう、ハマポークになる豚は、ハマミールを利用する12軒の養豚家に育てられているのです。一方、千葉県香取郡の大規模養豚家・アリタさんが手塩にかけて育てた豚は、味が良く臭みが無く豚肉ならではの風味が生きていると好評です。アリタさんちの豚肉、という名で京急百貨店上大岡店で販売されています。

ハマミールで輸入に頼らない食品のリサイクルを

食品未利用資源のリサイクルについて、前出の前川さんにお話をうかがいました。

ここまで徹底した品質管理が必要なんですか？

「ハマミールの品質管理には絶対の自信があります。何せ、原料区分と配合割合（穀類や野菜類、肉類など多様な原料をどのくらいの割合で混ぜるかということ）は綿密な研究の結果はじき出した数値で、大切な企業秘密です。特許出願中なんです。人の口に入る豚を育てるための飼料なのだから、それぐらいの厳しい品質管理は必要なんです。けれど、これまでの食品リサイクルではありえなかった。ムダにしなければ良い、ぐらいでね。だから、これだけの設備を整えているのは世界を探してもうちだけです」

食品のリサイクルは飼料以外にも肥料、バイオガス化などがありますが……？

「私たちが飼料にこだわるのは、これまで畜産の飼料はあまりにも外国からの輸入に頼り過ぎていたという点に着目したからです。国内の食品がムダに捨てられ、かたや飼料のために穀物を輸入する、へんです。『私たちのハマミールを食べたおいしい豚なら、自信をもって販路の開拓しよう』ということで、デパートやスーパーへの販路開拓もします。そのお店から出る食品未利用資源をうちが引き取り、またハマミールに加工する。こうするとほら、循環しますね。もう、輸入に頼らなくても良いというのが理想でしょう。うちの組合が資源の引き取りから再生品の加工、販売まですべてやるのは、そ

ういった大きな循環を考えているからです」

食品リサイクル法などという法律がなくても、むかしから食べ物を粗末にはしてはいけないというのは鉄則です。お茶わんにごはんつぶをつけたまま片付けようとする、親にしかられるのはあたりまえです（でした？）。法律がきっかけとなり、その、忘れられかけた常識を再確認する世の中になることを期待します。リサイクル技術はこうして日進月歩ですが、搬入されたおいしそうな残さの山を目の当たりにして、リデュース（利用削減・廃棄物の発生抑制）の大切さをひしひしと感じました。

取材協力：横浜市有機リサイクル協同組合



教えて、聞かせて

市立山元小学校
(中区)

自家製たい肥でみんなの畑は大豊作

ごみを減らすために“給食の残り物をたい肥にしよう”という試みが、横浜市では平成10年度に始まりました。現在、市内45校で敷地内にコンポスト（生ごみ処理機）を置いて取り組んでいますが、今回はできたたい肥を使って広い畑を作物の宝庫にしている山元小学校を紹介します。

1、2週間で たい肥完成



大正10年（1921年）創立という長い歴史のある山元小学校は、小高い丘を背にした緑豊かな環境の中にあります。

ここにコンポストがやってきたのは、平成10年（1998年）4月でした。縦約1.3m、横約2.5m、高さ約1mという大きさのコンポストに、給食を作る時に出る不可食部分（野菜・果物のヘタやタネ、芯など）や食べ残しなどを入れる

と、バクテリアの働きによって発酵し、だいたい1、2週間で入れた時の10分の1ほどの重さのたい肥ができます。こちらでは毎日調理員さんが残り物を入れ、あとは出来上がりを待つだけ。サラサラした腐葉土のようなたい肥ができたなら、“山元農園”に児童が運びます。それは、5、6年生の裏庭いきいき委員会の役目です。



野菜も果物も虫たちも元気な山元農園は300坪！

平成8年に全面が整地されてできた山元農園は、学校のプールを見下ろす高台にあります。平たんな場所は野菜畑にし、周囲にはウメやスモモ、ブルーベリー、柿、夏ミカンなどの果樹を植え、斜面にはツル性のカボチャやスイカをはわせる、といった具合に300坪という広大な敷地を生かし切っています。農園におじゃましたのは、夏休みまじかの7月なかば。そこにはとうもろこしやナス、キュウリ、プチトマトなどの実がなり、シソの葉がふさふさと風に揺れていました。案内してくださった副校長の益田先生が「これ、食べごろよ」とブルーベリーの、熟して

白く粉をふいた実を取ってくれました。ポイッと口に放り込むと、力強い香りと甘みが口にパアッと広がって……。プチトマトもそのままいただきましたが、野菜本来の味がしっかり味わえて感激。

畑の中はもちろん、周辺の空いた場所にはバッタやキリギリス、カマキリ、コ

オロギなどの昆虫もたくさんいて、放課後の子どもたちの遊び場としても大活躍です。

PTAと児童と先生方の“協働”のたまもの

「本当に、保護者と地域の方の協力には感謝しています。山元農園の運営も、PTAの“畑の会”の支えがあってこそ。子どもたちは給食の残りや調理くずがコンポストによって肥料になり、それで育った畑の作物をまた自分たちが食べるということを、身をもって学んでいます。給食で、とれた野菜を食べたりもするんですよ。山元農園は生活科、社会科、理科、家庭科、給食指導等と深い関わりをもっているんです」と益田先生。

児童と一緒に汗を流し『はたけしんぶん』の発行などもしているのが畑の会のみなさん。そして、畑作業の指導をしているのは当校児童のおじいちゃんである小関さん。農業についての知識と

経験を惜しみなく与えてくれる小関さんは、無くてはならない存在です。

さて、農園へ続く急な坂道は、校庭の反対側にあるコンポストから子どもがたい肥を運んで上がるにはけっこうたいへん……。しかし、みんな笑顔で勇ましく上って行きます。収穫の喜びを知っているせい、でしょうか。元気な子どもたちなので給食の食べ残しはとても少なく、1日に5、6キロほど（児童数362名に対する残さとしてはだいぶ少なめ）。食べ残さないのが一番、しかし、どう努力しても出てしまった残り物は有効に再利用する。そのことを毎日の学校生活で実践している子どもたちです。



キュウリのヘタやパンの残りをリサイクル！

市役所ごみゼロ

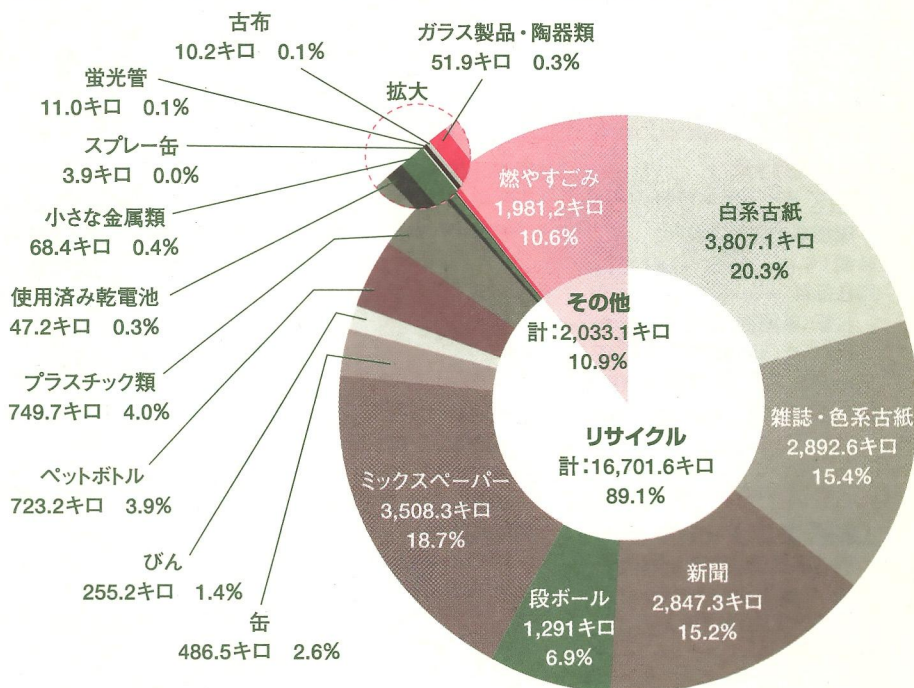
目標は平成18年度のごみ廃棄量を、
平成13年度実績に対して80%削減、
リサイクル率を90%にする

リサイクル率約90%達成!

横浜市役所では、「人には優しく・ごみには厳しく」をスローガンに市役所のごみゼロを強力に推進しています。ごみの分別を徹底するため、四半期ごと（6・9・12・3月）にごみ量チェック週間を設定し、各職場で品目別に検量・混入チェックを行います。

6月21日から25日までの1週間に第1回ごみゼロチェックを実施しました。市庁舎・周辺民間ビル・18区庁舎で18,735キロのごみが発生し、うち16,702キロをリサイクルし、リサイクル率89.15%を達成しました。

●第1回市役所ごみゼロチェック週間の実績



ごみゼロ推進委員（通称「Gメン530」）に市長辞令交付

横浜市全局区でごみゼロを積極的に進めるため、各職場から「ごみゼロ推進委員」を選び（全局区 計581名）、推進委員には市長辞令を公布し、職員が先頭に立ってごみの減量と分別徹底をすす

めます。ごみゼロ推進委員の役割は、ごみの分別徹底に関する、職員への説明・啓発、ごみの分別状況の点検とごみ量の把握、そして仕事の中でのG30推進などです。

6月中旬から全推進委員対象に「スタートアップ研修会」を実施し、6月30日に各局区の取りまとめ役「キャプテンG」（47名）に市長辞令が交付されました。

～分別収集品目拡大モデル事業 アンケート結果から～

平成15年10月6日から市内約4万世帯で実施している、分別収集品目拡大モデル事業について、実施状況の調査し、今後の全市展開に向けて参考にするために、モデル地区市民にアンケートを実施しました。

3,600枚(200世帯×18区)配布したうち、2,276枚の回答が寄せられました(回収率63%)。

このアンケートを参考に、市民の皆さんがこれからも積極的に分別に取り組めるよう、広報・啓発を実施していきます。

回答の主な内容

- 分別をはじめからの家庭ごみ(燃やすごみ)を出す量は、約62%の人が半分以下に減ったと回答、モデル地区市民の分別への関心と協力度が高いことがわかります。
- ごみや資源物をだすときの袋の大きさや数で最も多いのは、家庭ごみがレジ袋1個(約35%)、プラスチック製容器包装が45リットルの袋1個(41%)、缶・びん・ペットボトルがレジ袋1個(38%)となっています。
- 分別に関して工夫していることは、「分別ボックスを段ボール箱で作って利用している」など、各家庭でさまざまな工夫がされていることがわかりました。
- 分別を実践してみても感想は
 - ・最初は大変と思ったが、慣れれば平気
 - ・プラスチック製容器包装が多いのに驚いた
 - ・環境のため分別はやるべき
 - ・家のなかの置き場が大変である
 - ・減量・リサイクルについての意識が高まった
 などが多く寄せられました。

リサイクル掲示板

センターリサイクル ※品目ごとに分別を。事業系ごみは不可。

●8月毎週土曜日

・西区 センターリサイクル
環境事業局西事務所

時間：午前9:00～11:30

回収品目

古紙(新聞紙、雑誌、段ボール、紙バック、その他の紙)古着、スプレー缶、プラスチック製容器包装

問い合わせ 環境事業局西事務所
TEL 241-9773

●8月1日(日)

・泉区 センターリサイクル
環境事業局泉事務所構内

時間：午前9:00～12:00

※雨天実施、車で搬入可

回収品目

新聞、雑誌、段ボール、紙バック、古着、古布、毛布、カーテン、着物、酒びん、ビールびん、アルミ缶、スチール缶、小物金属

問い合わせ 環境事業局泉事務所
TEL 803-5191

●8月1日・8日(日)

・青葉区 センターリサイクル
環境事業局青葉事務所裏駐車場

時間：午前9:30～12:00

※雨天実施

回収品目

新聞、雑誌、雑紙、段ボール、牛乳パック、繊維類、小物金属、リターナブルびん

問い合わせ 環境事業局青葉事務所
TEL 975-0025

●8月7日(土)

・センターリサイクル inせや
瀬谷区二ツ橋公園

時間：午前9:00～12:00

※雨天中止、車で搬入可

回収品目

新聞紙、雑誌、段ボール、紙バック、古着、古布、毛布

問い合わせ 環境事業局瀬谷事務所
TEL 364-0561

●8月7日・21日(土)

・保土ヶ谷区センターリサイクル
保土ヶ谷区役所駐車場(別館側)

時間：午前9:30～12:00

回収品目

新聞、雑誌・その他の紙、段ボール、牛乳パック、古紙、スプレー缶、プラスチック容器包装

問い合わせ 環境事業局保土ヶ谷事務所
TEL 742-3715

●8月8日(日)

・かながわ センターリサイクル
神奈川区 反町公園(神奈川区役所側)

時間：午前10:00～午後1:00

※雨天実施

回収品目

新聞、雑誌、段ボール、牛乳パック、古着・古布(肌着、シャツ、タオル類のみ)、白色トレイ、リターナブルびん

問い合わせ エコライフかながわ
TEL 413-3196

●8月14日・21日(土)

・南区センターリサイクル
環境事業局南事務所

時間：午前9:30～11:00

回収品目

新聞、雑誌、雑紙、段ボール、紙バック、アルミ缶、スチール缶、びん類、プラスチック製容器包装、古布

問い合わせ 環境事業局南事務所
TEL 741-3077

●8月15日(日)

・旭区 センターリサイクル
環境事業局旭工場内

時間：午前9:00～12:00

※雨天実施

回収品目

新聞、雑誌、段ボール、紙バック、繊維類、リターナブルびん、アルミ缶、スチール缶、金属くず、プラスチック製容器包装、スプレー缶

問い合わせ 環境事業局旭事務所
TEL 953-4811

●8月21日(土)

・中区 センターリサイクル
①横浜公園日本大通り側

②環境事業局中事務所

時間：午前9:30～11:30

※雨天実施、車で搬入可

(ただし横浜公園内には車の乗り入れはできません。案内人が誘導します。)

回収品目

新聞紙、雑誌、雑紙、段ボール、紙バック、古布、缶、びん、ペットボトル、リターナブルびん、プラスチック容器包装、スプレー缶

問い合わせ 区役所ごみゼロ推進担当 TEL 224-8140

遠藤商店 遠藤信行さん

「生涯現役びん商！」をつらぬく



プロフィール

1949年(昭和24年)静岡県清水市生まれの55歳。1985年(昭和60年)に保土ヶ谷区鎌谷町に居をかまえ、妻と高3、中3の娘2人、そして愛犬のアレックスと暮らす。「最近子どもの事件が多いよね。父親として心配なんだけど、なかなか口を出せなくて・・・」と家族の中で女性陣にかこまれている悲哀もチラリ。

いしましたが6年前にボランティア仲間からお声がかかり活動再開。今は月1回、脳性マヒの障害を持つ人たちの送迎を手伝っています。

扱う品物が空き樽から空きびんへと変わり、今ではペットボトルや缶、ワンウェイびんの増加でびん商の本来の商売品であったリターナブルびんが減っています。それに、数十年前から『びん代』と言われるデポジットの料金も変わらずびん商としての商売は厳しくなっています。今までボランティアと仕事のバランスを保ちながら忙しく走り続けてきた遠藤さんに、ゆっくり休めたら何をしたいですかと尋ねてみました。

「まずは1週間ゆっくり寝る。それから考えるかな」と答える夫に妻がかたわらで「昔は鎌倉彫やマジックもやっていたじゃない」と口添えをしました。戦前父親がやっていた大工のほうよかったかも、とおどけつつ『生涯現役びん商!』と力強く宣言する遠藤さんでした。

「休日のほとんどはボランティア活動に」

戦後、満州から清水市へ引き揚げてきた遠藤さんの父親がびん商の知り合いを頼り横浜へ。磯子区でびん商を始めたのが遠藤商店です。現在は浅間町(西区)に事務所と車庫、保土ヶ谷区に倉庫、置き場を置き、主に西区と保土ヶ谷区の30数軒の酒屋を回って空きびんを回収し、問屋に納めています。

「昔の人は偉かったよね。戦後の混乱の時期は大変だったと思うよ。ろくに休みもなく朝から晩まで手間暇惜しまず働いて。私なんかその上に乗っかってこまで来たようなものだもの。私が20歳のときに父が亡くなって母が仕事を引き継いでね。そのとき私も一緒に仕事をしていたけれど、家中みんな協力してたな。2人の姉たちもトラックを運転したり、びんを運んだりしてね」

学生のと時から休日は家業を手伝っていたという遠藤さん。この職業につ

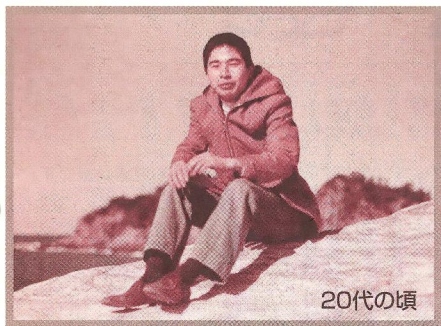
くのは当り前のように、だったのでしょ

うか? 「本当はしたいことがあったけど、でもそのときは他の道を選ぶ自信がなかったんだよね」

実は在学中から社会福祉に関心があったのですが、末っ子の長男で当時びんの景気がいい時期だったこともあり、びん商に。それでも思いを断ち切れず、福祉関係の夜間学校に通うなどしていました。そんなころふと目に止まった老人ホームのボランティア募集の新聞記事。そこから遠藤さんが「休みの日の暇つぶし」と称するボランティア活動が始まりました。老人ホームではお年寄りの話し相手や介護などを手伝っていましたが、そのうち「今度は障害児のボランティアをしよう」という話が出てそちらの活動に参加。市内の障害児施設で旅行の付き添いやお手伝いをしたり、市外の施設の運動会やバザーに参加したりと、休日のほとんどをボランティアにあてていました。

「別にエライことやっている訳じゃないよ。単なる自己満足なんだ。ボランティア仲間と会って話したりするのも楽しかったしさ」

36歳で結婚してからしばらくは活動を休止、仕事と家庭づくりに専念して



20代の頃

環境を考えるなら、
まず自分の「手元」から

デザイナー新、一目でわかる
「リサイクルブランド」

牛乳パックは、飲む→洗う→乾かす
→リサイクルデザインボックス
ティッシュに→使う

残念ながら
一度使ったティッシュは
リサイクルには向きません。
使い捨てなら再生品を!

リサイクルデザイン ボックスティッシュ



200組400枚入り/1個

1ケース50個入り(5個1組×10パック) 3,675円(価格は市内送料・税込みです)
*ご注文は1ケース以上でお願いします。11ケース以上の場合、1ケースあたり
3,465円になります。1パック(5個)あたりに換算すると347円から368円です。
*市外への発送は別途料金がかかります。

もったいない! ティッシュは使い捨て!?
だから作りました
「牛乳パック100%の再生品」

グループ購入のおすすめ

「10パック(50個)は、多すぎる」
と思ったあなた。グループ購入という
方法もありますよ。

例えば5人で購入すれば、1件(1家族)
あたり2パック(10個)というほど良
い数。町内会や子供会などおおぜいの仲
間を集めれば、一度に大量購入もできる
かも。11ケース以上だと、お得な割引
価格になります。玄関先までお届けします
ので、たいへん便利です。

●ご注文・お問い合わせは
横浜市資源リサイクル事業協同組合
電話/045-444-2531
FAX/045-444-2532

親子で食育考えよう！

「食育」という言葉を見たり聞いたりする機会が増えました。字から想像すると、食の教育で、なんとなく内容はわかるけど、具体的には、どうすればいいかわからない・・・と、よく質問されます。これについてのとらえ方は、人により様々ですが、大きくまとめると、子どもの頃より、健康の源となる食べ物について、食べ方、作り方、良い食べ物の見分け方など、食生活の自立を教育するものだと考えられます。健康こそが、将来の財産となることを、食を通して学ぼう！というものです。全くその通り！若い頃、病気を繰り返した私は、この言葉に強く心を打たれました。食を追求すると、たくさん学びがあり、幅広く知識が身につきます。健康でいられる幸せ、ごはんをいただけるありがたさ、食材が多くの人の手間がかかった生き物であること、それらが私たちの命を支えていること・・・あたりまえにいただく食の時間がいかに大切かがみえてきます。

「食育」は、子どもだけでなく、何歳からでも始められる、人として学ぶべき哲学のようなものも含んでいます。また、知って得する、生活術でもあります。すべきことは、あたりまえの生活のなかに、たくさん詰まっています。

夏休み、親子で台所に立ち、日頃何気なくしている炊事に目を向けてみてください。エコ的生活の実践は、食育の大きな柱だと思います。是非この夏、親子で食育を考えてみてください！楽しい夏休みを！

材料4人分

豚ロース焼肉用 8枚
(塩・コショウする)

A 市販田楽みそ 大3弱
おから 100g
野菜くずみじん切り 50g
トウバンジャン 少々
にんにくすりおろし 少々

B とき卵 1/2個分
小麦粉 大2弱
水 大3
パン粉 50g
揚げ用油 適宜

重ねカツ

1) Aをボウルのなかでよく混ぜ、4等分しておく。



2) 2枚1組で、1人分。
1枚に1)を塗り、もう1枚を重ねサンドする。
4組作る。

3) Bをボウルのなかで混ぜ、2)をくぐらせ、パン粉をしっかりとつける。



お好みで、塩をつけていただきます。
※野菜くずはキャベツの外葉や芯、にんじんの外皮、茶殻などをいれましょう！

「エコ・クッキング」は東京ガス株式会社の登録商標です。

コラム

『リサイクル 今とむかし』 こぼれ話

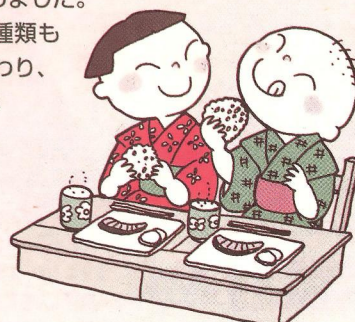
このコラムでは、月刊リサイクルデザインの別冊として発行した『リサイクル 今とむかし』に掲載しきれなかった「こぼれ話」を連載します。

学校の楽しみといえば給食？

給食のない学校なんて……といわれそうなほど、学校と給食は切っても切れない間がら。その給食の起こりは明治22年の山形県でした。鶴岡町の私立忠愛小学校で、お弁当を持ってこれない貧しい児童を対象に無償で昼食を与えたのが始まりです。おにぎりや焼き魚、つけものといった簡単な献立でした。昭和7年、貧困家庭を救済し、就学率を高め児童の体格を良くするために国庫の補助により学校給食が推奨されました。

横浜市における学校給食は昭和21年12月、鶴見区の岸谷小学校でスタート。22年ごろのメニューはみそ汁またはすまし汁と脱脂粉乳、26年ごろには週に3回から5回コッペパンや少しのおかすが加わる“完全給食”の体裁が整い始めました。31年ごろからマーガリンやジャムが出て、おかずの種類も増えました。41年には脱脂粉乳からびん入り牛乳に変わり、続いて52年にはびん入りから紙パック入りの牛乳になり、ほぼ現在のようになりましました。

牛乳の容器が何度でもリユースできるびんから紙パックに変わってしまったのは残念な気もしますが、市内にはその紙パックをきちんとリサイクルしている学校もたくさんあります。





リサイクルデザインフォーラム
マスコットくみちゃん

みんな集まれエコレンジャー！

参加無料

今年のリサイクルデザインフォーラムは、
「みんな集まれエコレンジャー！」をテーマに行います。
次世代を担う子どもたちをはじめ、
幅広い世代の皆さんが、まさに地球環境を守るために活躍する仲間、
エコレンジャーとして集い、さまざまな角度から
環境問題について考える機会にしていきたいと考えました。
ぜひ、ご参加下さい。

日時／10月31日（日）11時～16時

会場／大棧橋C I Qプラザ

予定されている内容

- ・子ども環境会議（学校の代表者による会議）
- ・学校でリサイクルや環境問題について行っていることの発表会
- ・環境絵日記の展示
- ・3Rそれぞれのブースでクイズやゲームなど
その他

参加希望者はどなたでも
入場できます。
環境絵日記にご応募いた
だいた方全員に「環境絵
日記参加賞」を、当日会
場にてお渡しします。

市民審査員募集

環境絵日記の審査員を今年も
募集します。お申し込みはリ
サイクル組合事務局まで。
9月23日（木）の選考会に
参加して頂いた方には記念品
と交通費（一律になります）
をお持ち帰りいただきます。

締め切りは
9月10日です

- みなとみらい線「日本大通り駅」下車 3出口徒歩約5分（H16.2開通）
- 横浜市営地下鉄・JR「関内駅」「桜木町駅」下車 徒歩約15分
- 横浜駅東口バスターミナルから
市営バス/8・20・58系統「県庁前」下車徒歩約5分 26系統「大さん橋」下車徒歩3分

主催 横浜市資源リサイクル事業協同組合／後援 横浜市／協力（財）横浜市教育文化研究所（株）シーンメイカーズプロジェクト
＊詳細が決まり次第「月刊リサイクルデザイン」誌上でご案内します。

リサイクルデザインサポーター 協力会員募集！

●横浜市資源リサイクル事業協同組合

（リサイクルデザイン発行母体）では、協力会員（通称リサイクルデザインサポーター）を募集しています。リサイクル・環境教育・街づくりに
関心のある方、自然環境との共生にお知恵のある方。リサイクル情報誌
「月刊リサイクルデザイン」を通じて、リサイクル問題の現状や、「循環
型都市よこはま」づくりについて、一緒に考え実践していきたいと考え
ています。

リサイクルデザインサポーター登録の方へは、組合イベントのご案内
や情報誌「月刊リサイクルデザイン」を毎月無料でお送りいたします。

●申込方法

お申込は、FAX・メール、またはお電話で、下記資料請求先へ

- 1.ご住所 2.お名前 3.電話番号 4.「リサイクルデザインサポーター
申込希望」とご明記下さい。折り返し申込書をお送りいたします。

●参加資格・条件

- 1.横浜市内にお住まいの個人および団体（資源集団回収実施
団体・市民団体など）の方
- 2.私たちの活動をご理解、ご支援していただける方
- 3.ご本人の入会意思と、正組合員の推薦
- 4.脱退は原則自由です
- 5.入会金や年会費はありません

●資料請求先

横浜市資源リサイクル事業協同組合

TEL 045-444-2531/FAX 045-444-2532

Eメールmail@recycledesign.or.jp



古紙をしばればまるごとリサイクル

1巻きの長さ90m		価格（税込）	送料
バラ売り		1巻250円	1～6巻400円 7巻～ 600円
箱売り (1箱50巻)	1～9箱	1箱11500円 (1巻230円)	価格に 含まれます
	10箱～	1箱 9500円 (1巻190円)	

お申し込み 横浜市資源リサイクル事業協同組合
お問い合わせ TEL045-444-2351/FAX045-444-2352

小結くん販売場所 ●横浜市青葉区・緑区・磯子区・都筑区・鶴見区・神
奈川区・保土ヶ谷区の区役所売店 ●グリーンバザール（南区）●ブックショ
ップふれあい戸塚店（戸塚区ダイエー横）●大船店（鎌倉市小袋谷）●コミュ
ニティストアすすきや（戸塚区）●御菓子処おきな堂（神奈川区）●武松商事（中
区）●村松商店（鶴見区生麦）●おおぐち通商店街事務所（神奈川区）●ぶら
むろーど杉田商店街事務所（磯子区）●バラエティたかはし屋（神奈川区）

※振込手数料をご負担ください 販売して下さるお店募集中！



RECYCLE Design

リサイクルデザインのロゴマーク

2つの円形は血管を表しています。右の赤い円形が動脈、左のにじんだ円形が静脈。私たちは、産業全体の中の静脈部分を扱っていますが、静脈の正常化だけでなく、動脈の正常化も同時に目指していきたいと考えます。

●リサイクル標準価格表

2004年6月現在
日経 6/24

品名	買入価格	業者の売値
	1キロ当たり	1キロ当たり
新聞	*** 0円	5~5.5円
雑誌	** 0円	3円
段ボール	** 0円	3.5~4円
衣類くず	** 設定不能	0~1円
アルミ缶	**** 10~15円	
小学校アルミ缶回収	40~60円	

* 集団回収には「買入価格」を適用 ** 有料
*** 有料の場合あり **** スチール缶と選別済の価格
★ 500キロ以上集団回収する団体の適用価格です。

取引条件により多少変化します。

★ 事業所から発生したものは集団回収の対象になりません。事業所ごとに業者と直接ご相談ください。

★ 集団回収以外の段ボール回収は、1回3000円以上の手数料がかかります。段ボールは必ず束ねて出してください。

★ 小学校アルミ缶回収は、100kg以上の場合・小学校のみ適用。専用の回収袋を使用。現金化のほかに車いす(250kgで)にも交換できます。

INFORMATION INFORMATION INFORMATION INFORMATION

リサイクルデザインのビデオ 「未来を生み出すリサイクル」

このビデオは、暮らしの中から出る資源物(古紙・空きカン等)がどのようにリサイクルされているかを、一人の小学生の目を通して見ていく様子が描かれています。ぜひリサイクルの学習等にご活用ください。



詳しいことは

横浜市資源リサイクル事業協同組合
TEL 045-444-2531
FAX 045-444-2532

『リサイクル今とむかし』リサイクルデザイン 別冊

月刊リサイクルデザインでは、2003年1月の100号記念号で「リサイクルの今と昔」を特集しました。今回、その内容をいちだんと豊富にして構成し直し、あらためて、月刊リサイクルデザイン別冊『リサイクル 今とむかし』を発刊しました。イラストを使って、子どもたちに分かりやすく、江戸時代のリサイクルから現在のリサイクルまでを紹介しています。

好評発売中!



※ グリーンバザール(南区六ツ川)に置いてあります

価格 350円(税込)

フルカラー24頁

※送料は別料金になります

今月の特集は「食品リサイクル」です。先日、韓国では「ゴミギョーザ」が問題となりました。グルメな人の中には「食べ物が一番おいしいのは腐る直前」等という人もいらっしゃるようですが、「ゴミギョーザ」は言語道断!まさか、これが「食品リサイクルの一環」と考えている人はいないでしょう!振返って横浜では残った食品はどのように処理されているのか、今一度本誌をお読みください。そして「食品リサイクル」について皆で考えていきたいものです。

編集室から

FAX 045-444-2533

Eメール mail@recycledesign.or.jp

月刊リサイクルデザインは次の場所に置いてあります

● マリンスポーツデスク・リップル(鶴見日新ビル2F) ● グリーンバザール(南区六ツ川) ● ブックショップふれあい戸塚店(ダイエー横)・大船店 ● 地酒 篠原屋(港北区篠原) ● 神奈川銀行瀬谷支店・本牧支店 ● 損保ジャパン横浜支店 ● 東京ガス環境エネルギー館 ● マルエツ井土ヶ谷店・大倉山店 ● 相鉄ローゼン三ツ境店・港南台店・大口店・二俣川店・緑園都市店・いずみ中央店・山手台店・白根店食品館・モザイク港北店・六ツ川店・釜利谷店・和田町店・左近山店・瀬谷店・いずみ野店・弥生台店・笹山店・東寺尾店・富岡店・ひかりが丘店・希望ヶ丘店・並木店・南まきが原店・中田店・南瀬谷店・ひなた山店・磯子店・オルト新子安 ● マイカル天王町サティ店 ● ジャスコ駒岡店・金沢シーサイド店 ● カフェ社(港北区日吉) ● きまま舎(緑区霧が丘) ● うどんカフェ(青葉区こどもの国) ● 横浜国際ホテル(西区南幸) ● さくら歯科クリニック(オーケー港北ニュータウン店2F) ● リサイクルショップ「トロワの森」 ● 横浜国立大学生協同組合大会館店・工学部店 ● 神奈川県中小企業団体中央会(中区尾上町) ● リセールショップ遊眠

月刊 リサイクルデザイン No.119

発行日: 2004年7月25日

発行所: 横浜市資源リサイクル事業協同組合

発行人: 秋元康男

〒221-0054

編集人: 工藤健一

横浜市神奈川区山内町13番地

編集室: 戸川孝則・竹澤留美

TEL 045-444-2531/FAX 045-444-2533

広報企画委員会: 山岡秀明・武松昭男・松澤嘉継

制作: (企) エコ・アド

杉山宜利・芦澤博志・宗村隆寛

印刷: (株) 横浜プリント

栗原清剛・大内 敦

月刊リサイクルデザインは新聞古紙100%の再生紙と環境にやさしいSOYINK(大豆インク)を使用しています。

